

## 令和元年度第3回鎌倉市環境審議会会議録

- 1 **開催日時** 令和元年10月24日（木）午後2時から午後4時まで
- 2 **開催場所** 鎌倉市役所本庁舎2階 第2委員会室
- 3 **出席者** 猿田会長、川口委員、小田委員、廣瀬委員、落合委員  
熊田委員、村田委員、山本委員、中村委員
- 4 **事務局** 能條環境部長、植地環境部次長、戸川課長補佐、兼村職員、古賀職員、  
島田囑託職員
- 5 **議題**
  1. 鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）計画素案について
  2. 鎌倉芸術館等照明器具修繕（既存照明器具のLED化）に係る消費電力量  
について
  3. その他

### 6 配付資料

（事前配布資料）

「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）計画素案 2019/10/18 案」

（当日配付資料）

資料（1）鎌倉芸術館等照明器具修繕（既存照明器具のLED化）に係る消費電力量

（当日貸出資料）

＊第3期鎌倉市環境基本計画

（鎌倉市地球温暖化対策地域実行計画、鎌倉市環境教育行動計画を含む）

＊平成30年度版かまくら環境白書（平成29年度実績）

＊鎌倉市エネルギー基本計画・実施計画

### 7 会議内容

出席人数の確認後、配布資料の確認を行い議事に入りました。

#### 議題1 「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）計画素案について」

**猿田会長** それでは議題に入ります。議題（1）「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）計画素案について」、事務局から説明をお願いします。

**戸川補佐** 議題1「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）計画素案について」を説明。

**猿田会長** ただいま「鎌倉市地球温暖化対策実行計画（事務事業編）計画素案について」説明がありました。ご質問、ご意見はございますか。

**中村委員** 23ページの「樹木による二酸化炭素吸収作用を促進するため緑地を進めます。」という部分をきちんと修正するという部分については、非常に良心的な判断だと思います。よくこういう事を、いわば森は酸素の供給源だというふうに一面的に入れてしまったりすることがあるんですが、森は酸素の供給源であると同時に二酸化炭素の排出源で

もある。例えば、樹木だけではなくて、地面に落ちた落ち葉の酸化作用によって二酸化炭素が大きく排出されるというようなこともありますので、こういうことを非常に良心的に表現するということは、この審議会の信用をきちんと高めるという意味で、僕はとても効果があると評価します。

**猿田会長** はい。ほかに。今の中村委員のご意見、この緑化を推進することも重要です。ですから、それに加えての二次的な影響に対しての今ご意見だと思いますので、その辺きちんと整理して下さいね。緑化をやめるなんてことでは困るのでね。

**中村委員** 一面的ではいけないということですね。

**猿田会長** 将来、排出と吸収とのバランスとしてゼロにしようという中で事業の項目にもなってくるわけですから、海の方の吸収だけ満杯状態になってきているから、あとどうやって吸収させるかの問題がある。ほかにどうぞ。

**小田委員** 31ページ、図5-1について未利用エネルギーの記載をどのようにするかというところですが、一つの案として、26ページもしくは27ページで、取組方針ということが書いてあるわけですが、未利用エネルギーの大きな供給源としては、一般廃棄物26ページの一番下ですとか、27ページ上段の下水道施設のところに未利用エネルギーがたくさんあると思っておりまして、そういった中で書いていくっていうのも一案かなというふうに思いました。よろしくお願いします。

**猿田会長** 今日の資料とは別だけど、最初に、老人ホームなんかの送り迎えの話が出ましたよね。今あちこちでモーターショーをやっているけれども、かなりEVの電気自動車の新しいのが出て来ているので、将来そういうことを考えれば、こういうところにそういうものを、安くならなければ買えないでしょうけど、積極的に採用するとか、何かそういうことを担当のほうから一言出てくると嬉しいですねってことを申し上げたかった。

**廣瀬委員** 修正箇所以外のところでもよろしいでしょうか。

**猿田会長** どうぞ。

**廣瀬委員** 前にも発言して説明を受けているのですが、一般廃棄物処理施設については鎌倉市の場合には、自区内の出たごみについては、自区内で処理しないと方針を出していて、この部分については、今回の話題になっているエネルギー由来のものについてはカウントしなくていいですと聞いたのですが、とすると、これで40%の計画は出来ているのですが、本来、どこの自治体でもやっている一般廃棄物の処理というのを進めた場合には、つまり、この表の中では、非エネルギーの部分ではなくて、エネルギー由来のエネルギー量から来るCO<sub>2</sub>の排出量これが減っているわけですよ。そうすると、もし通常の自治体と同じような義務を果たしていった場合には、あとどのくらいの努力をしなければいけないかというのは、ちょっと気になっているところなんです。今じゃなくて結構ですから隠れている部分の、なんて言いますか、外に出したので目標値が達成できた部分については意識していきたいと思います。次回で結構ですので、確か軽視できない数字だと思いますので、以前CO<sub>2</sub>の量という事ではなくて、電力自由化になった時に、どこの電気会社が安いかなということを検討したことがありまして、やはり清掃工場と

というのは、結構な電力量を消費するところですので、エネルギー由来の部分の数値というのはどのくらい自区外処理したことで、今回の計画に負荷がかかっているか否かについて知りたいので、よろしくお願いします。

**植地次長** 現在、鎌倉市には名越クリーンセンターという廃棄物処理施設がありまして、そこで焼却処理しています。古い施設ですので焼却するのみですが、今の新しい焼却施設のほとんどは、焼却による熱エネルギーを回収して発電をしています。ですから、焼却処理することで、施設の運転に電気を使いますが、それ以上に発電し、その施設で使う電力を賄ったうえに、余った電力を売っている施設も国内にはたくさんあります。自区内で燃さないことによって、必ずしも二酸化炭素を排出しなくて済む、電気を使わなくて済むということではなく、発電できる焼却施設であれば、逆に電気を生み出して、焼却施設以外の公共施設にも電気を供給して、全体の電気の使用量を抑える効果もあります。山崎に建設を予定していた施設は、そこで消費する電力だけでなく、隣に下水処理施設がありますので、そちらで使う電力も供給するという想定で予定をしていました。今回その計画が無くなってしまったことで、電力の面からいうと、二酸化炭素排出量が減るところの効果が得られなくなってしまったという結果になります。これまでの古い施設では発電できませんので、発電効率をどこまで上げられるか、施設の事情はありますが、必ずしもごみを自区外に持って行くことで電力使用量の面で、今回この計画がプラスになったというわけではありません。

**廣瀬委員** それはいわゆるコジェネレーションシステムということを行っているんでしょう。発熱から電力を生み出して、例えば地域一括でやっているような。おっしゃることは分かりましたけども。それは詭弁だと思うのですね。そのようにしようとしているんだったらわかりますけれども、ただ廃止するっていうだけなので、今使っている電力量が、要は、装置を動かすための電力量が、それが無くなるっていう部分でしか理解できないので、作ったとしたらこういうのもありますよ、それは努力をしている話で、でも、鎌倉市の場合には今までこれだけ電力使用量があった、エネルギー由来の電力使用量があったのが、無くなっているんでここからは削除されている。その部分が知りたいと思っているわけですので。

**猿田会長** そのところがちょっとわからないんだけど。どういうこと。

**廣瀬委員** 一般廃棄物処理施設を動かすときに結構な電力量を使います。

**猿田会長** もちろん使いますよ。

**廣瀬委員** 2024年度末までに名越クリーンセンターを停止します。だから、その部分のエネルギー由来の電力の消費については、この計画からは落としていきます。計画作りのルール範囲内のことですのでいいんですけど、私が言っているのは、どこの自治体でも自区内で廃棄物は処理するわけです。ましてこの計画のスタンスというのは、地球環境全体を捉えた中でのSDGsまでいっているわけですから、鎌倉市はそこを燃さないんだから、その部分は無くていいんですけどっていうのは、なんか納得いかない部分が私自身の中であって、なので今現状で、これだけのCO<sub>2</sub>を発生させている部分が、2024年度までには、要は、目標年度には無くなっているそういう数字の積み重ねをしているわけですよ

ね。この計画の中では。

**植地次長** 処理施設は無くなりますというのはい…

**廣瀬委員** 次長がおっしゃっているのは、作ったとしても、逆に電気を発生させるような物になるので、今ある施設で動いているものより、新しくつくったほうが、環境に対して負荷が小さいんですっていうんですが、その部分は、仮定の話をされているわけですよ。

**植地次長** 当初の施設計画はそうでしたということです。計画自体が今回変わってしまいましたので。

**廣瀬委員** それは、先ほどは山崎の話をしていましたけども、名越についてそういう計画がありましたっけ。

**植地次長** 名越の焼却施設を廃止する代わりに山崎に新しい焼却施設をつくって、それが発電機能を持つ形にするという計画でした。

**廣瀬委員** それはだから仮定の話ですよ。

**植地次長** そうです。計画で終わってしまいましたので。山崎にも作れなくなり、名越の焼却も停止をします。

**廣瀬委員** 作らないわけですので、作った後の効果の話をしてもしようがないですよ。今まで廃棄物の実績っていうのは現状でこのくらいの負荷がありましたというのはあるわけで、起点になっている2013年の時にはそれはあったわけです。それが将来的に新しい施設に変わりますっていう計画であるならば、いいんですけども。そうでないならばその部分で今までの現状のまま行く形になるので、そうするとやはりこのままほかの部分で環境負荷が小さくなるようもっと努力しないとかならないはずだったんじゃないかなと私は思うんですけど。

**戸川補佐** 過去の審議会で、ご説明させて頂いて、その数字が手元にないんですが、2024年度末に、名越クリーンセンターが焼却停止することによるエネルギー使用量の削減割合を見込んでいるのですが、それが6割だったか、4割だったかはっきり覚えていないんですね。名越クリーンセンターでの焼却は停止するけれども、残った部分には何等かの施設が残るということを想定して、今の6割だったか4割だったかを減らすことを数字として見込んでいる部分がございますので、次回までにその数字を確認して報告いたします。

**廣瀬委員** なんらかのプラントが残るので、電力を使うってことであるならば、それはそれでどんな風な見込み方をしているのかということを知りたいので、次回で結構ですか。

**植地次長** 新たな施設についてはまだ計画が白紙の状態なので、そこのご報告は、今はできない状態です。

**廣瀬委員** それを言って下さいと言っているのではなくて、何等かの施設が残るのである程度の電力量は見込んでいます。というお話だったので、そこは否定しているわけじゃないでしょ別に。次何を作るからいくらというんじゃないで、このくらいの割合は見込んでいます、そういう話をされていますよね。

**戸川補佐** 10割削減ではなくて、4割だったか6割だったかどちらかだと記憶しています。

**廣瀬委員** それがどのくらいだったのか、やっぱり知りたいと思うので。質問です。

**猿田会長** ちょっとわからんけども。今新しく作れば必ず発電施設が併設されるからそれなりに、その場で、工場などで使う電力は供給できるとか、余ったのを電力会社に供給しているとか、全国的にたくさんありますけどね。名越は、いまの古い施設だからそういうことは無理なんだけども。そのへんね。次にどういう資料がでてくるかによるけども。どういうのが出せるのかな。

**戸川補佐** 資料というよりも焼却を停止することによって、10割を、まるまるエネルギー使用量をなくすのではなくて、何割減ると見込んでいるかについて数字を出させていただけたらと思います。

**猿田会長** その間の処理はどうなの。経費とか鎌倉の。名越を停止したら。

**植地次長** 停止したあとは自区外の民間の処理施設や広域処理として逗子市の焼却施設で処理をお願いする方向で調整しています。

**猿田会長** 昔からね、広域処理で、ここは逗子と一緒にやるとかいろいろ計画はもう20年ぐらい前からあるけどね、未だに成功していないので。かろうじて、藤沢が寒川のを燃やしているのがひとつ広域処理かなぐらいの話だけども。それでは次回説明して下さい。

**山本委員** 37ページの表5-1についてなんですけども、先ほどご説明があったのですが、私はよく理解できませんでした。私が想定したのは、表5-1の表の、例えば、事務局でやろうとされていることは、表の一番右側にコストあたりの削減量みたいなものを付け加えるようにしていけば、というイメージで考えておられる。その後のご説明がちょっとわからない。どうしてそこまでいかなかったかという話の説明がちょっとわからなかった。

**戸川補佐** 実は、この表5-1は当初は、それぞれ項目ごとにどれくらい二酸化炭素が減るかという作りになっていまして、鎌倉芸術館を見て頂くと現在は、合計ですでているんですけども、かつては個々の数字を出しておりました。ところが、個々に出した数字は全てを実施した場合の数字でして、計画自体ではその全ては実施できないのではということで、50%の実施率で、数値を見込んでいますので、過去の審議会のご協議の中でそれは実際に見込んでいる部分50%での表をということになりまして合計の数値のみを記載することになりました。鎌倉芸術館ですと229.2の2倍の数字が当初出っていたのですが、その50%の229.2の合計で出すような表の作りになりました。それぞれ個々の費用対効果はコンサルが見込んだものがありますけども、それは、この合計の倍の削減量となるため、そのへんどういうふうに表現したらいいのか、検討しなければいけないと気がつきまして、今回は載せられませんでした。

**山本委員** 理由はわかりました。どうすればいいんでしょうね。

**小田委員** 例えばですけど、1トンあたり削減するためにいくらかかりますという原単位の書き方みたいな形であれば、実施率に関係なく書けるんじゃないかと思います。

**植地次長** もう一度、表現をもとへ戻しまして、それで、小田委員がおっしゃったように、全体の費用からすると1トンあたり削減するのにいくらかかりますというような表示も付け足すような形で作り直してみます。ありがとうございます。

**猿田会長** これね、項目によってずいぶん違うよね。

**戸川補佐** 例えば、鎌倉芸術館と鎌倉武道館で電気式パッケージエアコンの更新という項目がありますが、この部分は老朽化対策での更新ということで見込んでいまして、かなり費用対効果が悪いものになります。それに比べてLED化はかなり費用対効果が良いもので、投資の回収年数が全く違うような部分がありますので、それを全部まとめて記載するというのは、ちょっと乱暴かなという気がします。その辺で今検討させて頂いております。

**猿田会長** 削減量だけを中心に書いているからこうなるんでしょうね。パッケージエアコンの更新なんて金かかるだろうな。

**戸川補佐** コンサルが省エネ診断した結果ですと、例えば、鎌倉芸術館のパッケージエアコンは、更新するとエネルギーの削減額は年間で、90万円程度ですが、投資額が3,600万円ぐらいございますので、回収には40年ぐらいかかるような。それに比べましてLED化ですとエネルギーの削減額が、年間で450万円程度で、投資額が1,250万円ぐらいですので、2.8年ぐらいで回収できるような計算になっています。

**猿田会長** 役所だから費用対効果も考えなきゃ、みなさんの税金でやるんだから。

**戸川補佐** パッケージエアコンは、老朽化したら変えなければならないです。

**小田委員** 少し不思議なのは、あまりにも老朽化してる古いものだとすれば、最新のものになると、効率もよくなるので、その削減額が利用頻度にもよるんですけども、稼働率がもともと低いのか、選定があっていないのか、なんだろうなと思いついていました。

**猿田会長** そうのことね。確かにね、エアコンなどですと、私は3年前に入れ替えたんですが全然違います。15年前に入れたのと電力使用量が全然違うので驚いちゃった。家の中の数台を全部入替たのですが、ほんとに違う。

**小田委員** 稼働率が低いとどうしても入れた分だけの効率の向上というのが見えてこない。そういうところで、良く使われるところは、エネルギーコストの削減が見込めるんですけども。

**猿田会長** この頃の猛暑では全然違う。

**戸川補佐** ちなみに鎌倉武道館での試算ですと、パッケージエアコンは、年間でエネルギー削減額が85万円ぐらいで、投資額が1,750万円ですから、鎌倉芸術館の半分の20年ぐらいになります。おそらく芸術館はホールの部分もあるので、その辺の関係でしょうか。おそらく公演時間とかそういう時に数時間だけ稼働させているというような部分が影響しているのではないのでしょうか。

**猿田会長** 昔と違って機器が高効率になっているから、かなりそういう意味では節約はできるんでしょうけど。あとは立ち上がり時間がもっと早くなるとかね。そういうのもあるでしょうから。今の37ページよろしいですかそれで。他にどうぞ。だいぶ整理がされ

ましたね。

**中村委員** もう大体こういう難しい議論は、し尽くされてきたと思うのですが、一つ提案ですが、例えば、今数字のことを、考えながら試算効果というものが数字に出てくるということで、非常に実際的な効果のことを議論しているのですが、例えば、そういうことに表れないけれども、効果がある取り組みというのが、あるかもしれないと思うのです。例えば、小学校がいろいろ施設の中にありますけれども、小学生、中学生が彼らの非常に新鮮な目で二酸化炭素の削減に、ぼくらはこういう事をしてみたいというようなことを、課題にして取り組んでいる。実際には数字に表れないと思うのですが、例えば、こういう事を通じて子どもたちにそういう二酸化炭素の削減というようなことに興味を持ってもらい、実際に非常に難しいんだ、ということを知ってもらうという取り組みもまた必要ではないかなという気がしています。これは、今ここで論議するようなことではないのかもしれないし、実際、数字には表れるようなことではないんだけど、やっぱり、そういう視点も忘れてはいけないかなと思っていますので、どこか中に文として入れてほしいと思います。

**猿田会長** 今中村委員がおっしゃったこと、私、経過がありまして、一昨年かな、環境省の発案でクールチョイスだったかな。或る自治体で小中学生にね、温暖化対策の賢い考え方を募ろうというので、かなり集まったんですけどね。もう皆さんもおやりになっている、「電源はいらないところは消しましょう」とかいろいろな、「お風呂は続けて入りましょう」とか、確かに、今まで言われていることも多いんですが、子供さんたちがそういうことを改めて認識したっていうんで、「学校としては、それなりに効果がありました。」ということを経験先生がおっしゃっていましたがね。取りまとめを頼まれたので、お手伝いをしたことがあるんですが。それで30校ぐらいかな、何かまとめて子どもたちの各家庭に配った。今おっしゃった、こういう所には載ってこないけれども、日常生活の中で何が出来るのか、温暖化対策としてどういう事があるのか、その前に温暖化とは何かということを経験先生方が勉強して下さって、子供に説明するための講習会などを先生方がおやりになって、そしていろいろと子どもたちの考えをまとめたことがあります。今おっしゃったこと、まさに重要なことですよ。教育委員会などもこういうことに気を配って頂いて、総合教育かなにか、今どういふのがあるかわからないけれど、そういう中で、先生方と子どもたちが一緒に考え、まとめてもらうことが必要なんですよ。この審議会ですべてまとめていくだけじゃなくて、市全体として取り組むということになるでしょうから、今おっしゃっていただいたことは非常に重要なことだと思いますね。ありがとうございました。

**村田委員** 35ページの、本庁舎移転に関するところについてです。この冊子については、専門的な皆さんのご意見で素晴らしい完成度になっていて、素人の私が何か言えることがないような段階になっていると思うので、この冊子の次の冊子を作る段階のことなどを考えてみました。本庁舎を移転し新しい庁舎をつくることに関する部分で、「屋上・壁面緑化」と書いてあり、このあたりが、委員の皆さんがよくおっしゃる「鎌倉らしさ」を表す上で、キーワード・ポイントになり得るかなと思いました。鎌倉は、都市近郊の

中では緑地率が高いことが特徴だと思います。その「緑」を活かして、例えば、屋上・壁面だけでなく、市庁舎入口のエントランスやお庭が、ビオトープや在来種の緑を使って緑化されているといった形で、新しい建物を作るときに「緑」の力を使って鎌倉らしいイメージを演出するというのも、SDGs未来都市をイメージさせるモデルケースとして面白いのではと思いました。たとえば鎌倉駅のすぐそばでも、妙本寺さんの参道に行くと、緑に包まれて本当に涼しいと体感します。こうしたことから、やっぱりヒートアイランドや温暖化対策には、緑の力は欠かせないものだと思うんですね。この冊子の目次をみると、計画の趣旨上どうしてもCO<sub>2</sub>削減と省エネをどうするかということを書くことになると思うのですが、やっぱり「緑」があるからこそ出来る温暖化対策もあると思います。この冊子の次の段階や、もっと違う計画で語る部分であるかもしれないのですが、「緑の視点からの温暖対策」という鎌倉らしい視点もあるといいなあ、と思いました。また、市庁舎が建つ深沢地域は、今、モノレールの駅から見ると、広大な土地が広がっていて、これからゼロから街を造って行く、いかようにもデザインして行ける段階なんだなと感じられます。深沢地域のまちづくりの委員の方などが、取り組んでいらっしゃると思いますが、環境を意識した市庁舎と調和したまちづくりという視点で、環境の視点からも一緒に入って、SDGs未来都市らしい、例えば、街路樹に在来種を用いるとか、風の道をつくるとか、何か先進的な鎌倉らしさをイメージした緑化、それを用いた温暖化対策というまちづくりも面白いのかなと、アイデアとして思いました。

**川口委員** 今の村田委員の意見に関連して、新庁舎の話で、今おっしゃられたとおり、この36ページの図のイメージにもありますが、自然光を使うとか、自然の風、風の道を使うことによって、そもそも空調のエネルギーを抑えるとか、そういう開放的な空間、尚且つ、鎌倉らしい空間ということを検討されているかと思います。ここでは一次エネルギーの消費量が、正味ゼロ、またはマイナスと書いておられるのですが、今の検討の中で、主要エネルギーのどれくらい減らすのかを書いて頂けるといいのかなと思います。要するに行政施設としては結構大きなものなので、具体的な効果にもつながるので、今の検討の中でどれくらい減らせられるのか目標みたいなのがわかるとよいと思います。それで、今の新しいタイプの市役所として、最近出来ている市庁舎では、こういうタイプのものが増えていて、例えば、長岡市の「ナカドマ」のような多目的空間みたいなものが、同時に設置してあって、風の通りも非常に良くなって省エネタイプだと環境的にもよいと思います。昔だと沖縄県の名護市庁舎というのが素晴らしい建築で尚且つ自然の風が通るようにデザインされていて、暑い場所ですけど、すごく省エネタイプの市庁舎です。そういうタイプの自然を取り込むような庁舎になるっていうのがいいのではないかなと思いました。それとSDGsの話もあつたのでつなぐと、23ページのところに、SDGs未来都市かまくらって書いてあるのですが、これを読むと、「このことを踏え他の施策と連携を図りつつ」と書いてあるんですが、あまりにも、もやっとしていて、もう少し具体的に書いたほうがいい。SDGs未来都市では、経済と社会と環境と書かれていて、いずれにも関係があるんですが、これだとあまりにも、もやっとしていてわからないの



で、鎌倉市は折角SDGs未来都市になっているわけですから、今の話なんかも含めて、もう少し具体的に書かれたらどうかなと思いました。もう一個ついでに、35ページの一番上のところに「九都県市指定低公害車」と書いてあって、これは知っている人は、どの都市ってわかると思うのですが、知らない人は何かわからないのではないかと思います。あんまり説明を書くとうるさい感じになりますけど、「九」はどこだという情報がないとやはりわかりにくいです。後でどこかで米印で、引っ張って書きたいいただいた方がいいのではないのでしょうか。以上です。

**中村委員** 関連して、名護市庁舎の件は以前僕が発言した覚えがありますが、新しい市庁舎を作ろうという時に、名護市庁舎は絶対見る必要があると思うのですね。特に、海沿いの潮風のあるという環境で、風の通りを利用した省エネの非常に立派な建物なんですね。30年以上ももう経っていますけども。これは環境に対する一つの答えであったと今も思っています。何回か見学に行ったことがあるんですが、鎌倉にとってはお手本になると思っています。

**川口委員** 沖縄の風土を取り込んでいるような、デザイン的にも非常に素晴らしいですし。

**中村委員** デザイン的にももちろんそうですし、やっぱり風の通りをうまく利用したというところが素晴らしいですね。

**川口委員** それによって沖縄自体は暑いのに、名護市庁舎だったらそんなに冷房効かせなくても涼しい感じ。

**中村委員** 冷房はなかったですね。最初は。

**川口委員** 風が通るのでね。

**中村委員** ところがOA機器がたくさん入るようになって、潮風がOA機器に悪影響があるというので、難しくなっているというところがあるんです。ただ、いわゆる中庭とか中空の中庭みたいなのがたくさんあるんで、そういうところに市民や職員の方がいろいろ集えるような、さっきビオトープの話が出ましたけれども、そういうようなものを含めて作ったんですね。それはもう本当に参考になる。

**廣瀬委員** ああいう施設と言うのは、1年とか2年とか風の通りを計測してから作るのですか。デザインではなくて、自然の風の流れとか、一定方向で常に吹いているとかいうのを調べてからでないといけないですよ。

**川口委員** 設計者は「象設計集団」というところで、設計に入る前はかなり長く時間をかけて、あそこをスタディしてやっているって話でした。30年以上前の話ですが、その風土をすごく理解して作っているという意味で言うと、すごくサステナブルな市庁舎の例ですね。

**廣瀬委員** 地形とか自然環境とデザインしているってことですね。ただ建物作っても。

**川口委員** 沖縄独特の材料とか、沖縄といえば、シーサーがいっぱいあるので、ああいう沖縄らしいもの、また、沖縄の植生を使いながら、何と言っても環境にもよくサステナブルで魅力的という庁舎ですね。

**猿田会長** 今ならば先生が言われたように、気象条件とかそういうものを、かなりデータ

的には揃っているでしょうから、昔に比べれば。それこそ30年前に比べたらもっと作りやすいでしょうからね。技術的にも可能でしょうね。

**川口委員** 今回深沢ですので、深沢の環境をよく綿密に調査することが重要であると思います。まず、防災が一番大きな柱にあるんですけど。

**猿田会長** 防災は大事な特に最近の気象条件からいけば、異常気象の中での防災っていうのは十分考えなきゃいかんこと。その中で二次的にどう使いやすかったっていうのは。私は今富士市に住んでいますけれど、かなりの暑さで、窓を開けておけば通り抜けの風で涼しいんですよね、富士山からの風が吹き降ろしてくるので。そういう意味では昔に比べれば。富士山に住んでいたんですけど。それよりは窓を開ける回数が増えましたよね。だけど、この猛暑の中では、暑いのは困るんで、ついついエアコンを使っちゃいましたけど今年はかなり。

**中村委員** 鎌倉では有名な風の通り道っていうところが何本かあるんですね。そこはもう必ず南寄りの風が吹くと、とってもきれいないい風が吹いて、エアコンがいらなくてというような風のおり道がありますね。これはもう本当に自然の力ですから。そういうものをやはり効率よく利用するというのが、一つは省エネ、エネルギーを使わないようにするという知恵の一つだと思います。

**猿田会長** ですから、皆さんが日常生活の中で、ご利用なさっている面もあるんでしょうから、そういう事を普及するように呼びかけていけばまた大分違うでしょうね。ありがとうございます。これ「九都県市指定低公害車」、低公害車の指定でしょう。昔環境省の、環境庁の時代、関係したんだけど、どこの市だったかな。

**川口委員** 九都県市について調べてみたんですけど、埼玉、千葉、東京、神奈川、横浜、川崎、千葉、埼玉、相模原だったかと思います。

**猿田会長** そうなんですよ。後になって入ってきた指定都市もあるから、相模原なんかそうですね。これは、後で解説書なんか後ろのほうにつけるんですけどか。

**戸川補佐** 今は無いんですけども。

**猿田会長** それだったらそういう所に載せるとかね。

**戸川補佐** これでしたら、下にスペースがありますので。

**猿田会長** 九都県市として載せとけばいいかも知れないな。これは、かなり効果があったんですよ。NOxの減少にも特に。それはCO<sub>2</sub>にも関係してくる。ここで、35ページに出ているから、ちょっと思い出したことがあるんですけど、四つ目の「利用する場合は、常にエコドライブを実施する。」なかなかこれがね、昔から言われているけど、急発進・急加速しない。エコドライブっていうのは難しいんだけども。早めのアクセルオフ、不要物は積まない。今は、宅配でゴルフセットなんか送りますよね。ゴルフ行く方は。私はゴルフやらないんだけど。昔ある会社で問題になったことがあるんですよ。車にゴルフセット積むな。というのは結構重いらしいですね。セットが集まると。それを常時積んだまま通勤なんか使うな、と言いつつ会社があるのを聞いたことがあるんですけど、なるほどなあと思った。他にどうぞ。今日は貴重なご意見をたくさんいただいて。廣瀬さんがおっしゃった廃棄物の問題また別の視点から考えなきゃいけないでしょうか

らね。

**廣瀬委員** 25ページの一般廃棄物処理施設、これの部分の目標削減率に関する数字が減っていますよね。基準年度から比べると。このうちどれくらい見込んでいるか、簡単に言えばそういうことですよね。これはもう、そこの積算の部分を具体的に議論したわけではありませんし。踏まえていたいなと委員としては思うわけです。数字をどのくらい見込みましたというところを言って頂ければそれで結構です。

**猿田会長** 他に頼むという、いわゆる広域処理という視点でいけば、その受け入れたほうは、数字としてそっちで上げていますからね。今までの経験からいくと。ですから、こちらで再度、どこ、どこの分ですと上げる必要はないので、向こうが計算上入れていますから。ダブらないように。整理しないと。

**廣瀬委員** 一切そのような事は要望していませんので。

**猿田会長** いかがでしょうか。かなり整理されてきているように思います。川口委員がおっしゃっていた将来の市役所の計画や、どこまでSDGsについて書き入れられるのか。総合計画には将来の市役所の計画のことは書いてあるのですか。出てくるの。

**植地次長** 市では別の計画を作っていますので、ここにも基本構想という形で記載されています。

**猿田会長** 書いてあったよね。

**植地次長** そちらのほうの計画でまとめて行く計画になります。

**猿田会長** 内容的には温暖化だけの問題ではなくて、いろいろと全体的にもっと広い視点で、計画そのものをまとめなきゃいかんでしょうから、なかなかたいへんだと思うけど。少なくともこちらに関係するところだけは、きちんと整理しておかないとね。将来の計画なんだから。今年、小中学校などに入れたエアコンはどうだったのかね、使用状況は。

**戸川補佐** グリーン購入に適合するような物を入れているというのは聞いています。それによってエネルギーの消費量が減ってくると思います。

**植地次長** 順番に入れていますので、一番最初に入れたところはそろそろ老朽化しますから、今回入れ替えることによって、さらに省エネタイプになってエネルギー消費量が減ることになります。

**猿田会長** 前に替えているところもある訳ね。

**植地次長** この計画ではそのように、順次、より省エネタイプに更新していくという形で考えています。

**猿田会長** 私の住んでいる富士市では、今年全部入れたんですよね。ようやく全公立関係の、「富士市立」という公立の小中学校には全部入ったんだけど。そうしたら、東芝の工場があるもんですからね。東芝が一番安い値段で入札したんです。東芝は社運をかけて。他にとられちゃね、折角工場があるのについていうんで。一番安かったというので後で笑ったんだけど。子どもたちがかなり喜んだという話ですけどね。

**村田委員** うちの子どもも喜んで、夏を嫌がらない。「暑いのはいやだな」って言わなくなつて、教育効果もあったかもしれないですね。おかげさまで。

**猿田会長** 特にご発言がなければ議題の2に移ります。

## **議題2 「鎌倉芸術館等照明器具修繕（既存照明器具のLED化）に係る消費電力量について」**

**戸川補佐** 「鎌倉芸術館等照明器具修繕（既存照明器具のLED化）に係る消費電力量について」説明。

**猿田会長** 効果ありますね。

**熊田委員** 資料で見るとだいたい既存の本数の半分になっているんだけど、武道館だけ、時間の問題を除いても、こういう数字になるのかなと思います。要するに、今まで余分にいらぬ本数があったわけでしょう。

**廣瀬委員** 武道館の照明って特殊でしょう。天井が高くて高輝度のLEDじゃないとだめだし。

**戸川補佐** 今回の修繕部分はそういう部分ではなく、蛍光灯の部分だけを、環境政策課の予算で行います。エントランスとか、下駄箱の部分で、常時点灯しているところを行ないます。

**熊田委員** 非常に事務的な話ですけども、この資料ではマイナスが「－」こういうふうに出てきますでしょう。事務事業編の中で「－」と「△」といろいろあるんですよ。これは合わせた方がいいんじゃないというふうに思いますけども。マイナスは分かりにくいっていかどこかで落ちる可能性があるんで、一般的にはこういうのは「△」を使うのが多いんじゃないですかね。それは事務局で検討していただければ。

**猿田会長** ここはどうだろう。「－」のほうがわかりやすいけども。

**熊田委員** 事務事業編では、「－」って書いてあるところと「△」で書いてあるところがある。

**猿田会長** 両方あるのであれば、事務事業編は整理して下さい。

**熊田委員** 本当に使い分ける意味があるならそのままでもいいと思いますけど。

**植地次長** そちらは整理させていただきます。

**猿田会長** チェックしてみます。

**熊田委員** 事務局で見てもらえばいい。

**川口委員** 山崎浄化センターも比率が低いのは、理由はどういう事でしょうか。

**戸川補佐** 山崎浄化センターは、24時間点灯のところだけ修繕を行ないません。新しくつけるLEDがそんなに明るいものじゃなくても大丈夫であるということから、このように低くなっています。

**川口委員** わかりました。

**猿田会長** 例えば、40ワットが2本入っているところだよ。88が176だから。セットが2本組の蛍光灯が天井にぶら下がっているわけでしょう。

**熊田委員** おっしゃるようにたいてい他はみんな本数が半分になっているよという数字なんだけど、一番右を見ると本数の割合ではないんですね。なんかそこに意味があるんだろうと思いますけども。

**猿田会長** 普通の蛍光灯をLEDにすると、装置が、器具が、変わる場合もあるから。いずれにしてもこれだけの対象施設としてはここまで減らせますってことだね。メリットがあることがわかりました。よろしいですか。

**熊田委員** ちょっと違うことで、ここで質問していいのかどうかわからないのですが、後ろにきめ細かい資料が出来上がってきて、いろんなことを言い出すときりがない面もあるんで、私なんか市民代表で来ているようなもんですけど、みんなにどういう格好でね、内容を理解してもらってというか、こういうのが出来たよ、中身はこういう事ですよ。どんな格好で、市民に知らせるお考えがお有りなんですかね。

**戸川補佐** パブリックコメントという形で、約1か月間市民の皆さんから事務事業編についてご意見を頂く期間を設けて、各図書館などに、ご意見を出して頂く用紙なんかも設置しまして、ご意見を募ってそれで、ご意見に対する回答も示して、最終的に計画を完成させる予定です。

**熊田委員** 事務事業編としてはこういうことを考えているよということがあるわけですけども、それを市役所の中でも徹底されるか、変な話ですが、絶対値なんて必ずしも市民の人たちは計算したりなんかしないじゃないですか。例えば、車の話が出ていてできるだけ燃費節約しましょう。一方で、消防の査察なんか点検だとか、消防自動車で来るじゃないですか。そんなの勿体ないじゃないのって話になるよね。だって、あんなでかい車で来ればね、乗用車でくればいいんじゃないですか。そういうつまらない話にならないように、みんながやろうやろうというふうに、PRなり説明なりをして頂くことを考えて欲しい。

**猿田会長** 消防車で来るというのは査察ですか。

**熊田委員** 消防は、査察ですとか点検だとかに来るんですよね。民宿みたいなのをやっている所があるわけですよ。そういうところに査察なんかにくるわけですよ。そういうところに来るのに二人くらいが消防自動車で来る。だいたい消防関係ってみんなそうですよね。査察なんかを民間の車で来るってやらないよね。

**植地次長** 消防の広報車も確かに消防自動車です。

**熊田委員** そういうことがどうこうという事じゃなくてね。もしそうだとしたら、そういうようなことを市役所の中のいろいろな部署の人がそれを認識してということをお願いだけなんです。だから、市民に対してのPRだとか、動機づけと同時に、それに先立って市役所の中でのPRだとか、動機づけをして頂かないと誤解を生んじゃうので。

**戸川補佐** 庁内にはもちろん市の事務事業から発生する二酸化炭素についての計画ですのでPRをいたします。

**熊田委員** 折角ここまでちゃんとした資料が出来て、非常に緻密に検討されているわけですから、是非そういうことが徹底されるようにということでお願いをするしだいです。

**猿田会長** 部長さん、今熊田委員がおっしゃったようなこと部長会議の時にでも消防担当の方に、こういう意見も出ましたと言っといて下さい。

**能條部長** 当然計画を決定するまでに庁内の部長会議でも説明をしますので、今おっしゃっていただいたように計画を作って終わりではなく、どういうふう実践していくか、

数値に表れない職員の意識として必要な部分が当然あると思いますので、そこはきちんと取り組みが出来るかたちで周知をしていきたいと思います。

**猿田会長** よろしく是非お願いいたします。よろしいですか。LEDの効果があるということを確認して頂いたということで、これは終わりたいと思います。じゃ、その他に移りましょう。

### **議題3 「その他について」**

**戸川補佐** 「その他について」説明。

**猿田会長** ただいまの説明について、ご質問、ご意見はございますか。なければ本日の審議会はこれで終わらせて頂きます。